



昭和九年（一九三四）に室戸台風を牟岐港で宿直していた時に体験した人の話です。  
 「ラジオで大きな台風はこっちへ来よると放送していたが、何処も静かなもんや」と言っ  
 てきました。暑い夜でした。窓を開けると、星がキラキラ光っていました。昭和九年（一九三四）九月二〇  
 日夜、私は牟岐西浦漁協の建物の二階で二人の先輩とともに蚊帳かやの中で横になつて雑談して  
 いました。しばらくして、南側の窓ガラスが一枚割れ、蚊帳が揺れました。まだ電灯はついて  
 いました。外の見出し、風雨も少し納まりました。外に出ると、低地に海水がどどま  
 っていました。事務所西隣の家の二階屋根に加工場の棟木むなぎが二本、矢のように打ち込ま  
 れていました。土堤どていの松並木はほとんどが折れ、残った枝にトタンがタオルをかけたよ  
 うに垂れていました。浜の加工場は全部飛ばされていきました。まるで広い河原が広が  
 っているようでした。築堤ちくてい中の中央突堤が崩れていました。  
 「ごっついぞー」と三人は真つ暗闇の中、懐中電灯の光で一階へと右往左往うおうさおうしました。  
 突然、ドドドドツと建物全体が揺れました。外が見え出し、風雨も少し納まりました。外  
 に出ると、低地に海水がどどまっていました。事務所西隣の家の二階屋根に加工場の棟木むなぎが二本、矢のよ  
 うに打ち込まれていました。土堤どていの松並木はほとんどが折れ、残った枝にトタンがタオルをかけたよ  
 うに垂れていました。浜の加工場は全部飛ばされていきました。まるで広い河原が広が  
 っているようでした。築堤ちくてい中の中央突堤が崩れていました。

背景

室戸台風は、昭和9年（1934）に日本列島を縦断し、大きな被害をもたらしました。9月21日5時10分に室戸測候所で観測した最低気圧は911.9hPaで、当時の世界記録を破る強烈な台風であったために、室戸台風と命名されました。上陸後も中心気圧が低かったため、風が非常に強く、最大風速は室戸で西風毎秒45m、徳島で南東風36.7mを記録しています。台風は本州を時速70kmもの速さで北東に進んだため、風は経路の南東側で特に強く、この強い南偏風のために大阪湾を中心に著しい高潮が発生しました。

アクセス 牟岐港

- JR牟岐駅より南東へ直線距離で約500m
- 牟岐町中村
- 緯度経度 北緯33度40分02秒, 東経134度25分18秒



昭和三〇年代以前



▲民家に飛び込んだ堤防 (菜生海岸) (提供：高知県)

## 背景

平成16年(2004)10月20日、台風23号の激しい高波により、室戸市の<sup>なまへ</sup>菜生海岸では堤防が約30mにわたって決壊しました。越波等により背後の家屋13戸が被災し、3名の方が亡くなるという惨事になりました。堤防を乗り越えた水塊が背後の家屋等を被災させるとともに、堤防の決壊や流失が被害を拡大しました。この堤防の被災は、これまでの海岸災害では見られないものでした。この話は、異常な高波により被害を受けた町内会長さんの証言です。

## アクセス 菜生海岸

- 室戸市役所より南東へ直線距離約6km
- 室戸市室戸岬町
- 緯度経度 北緯33度16分24秒, 東経134度09分31秒

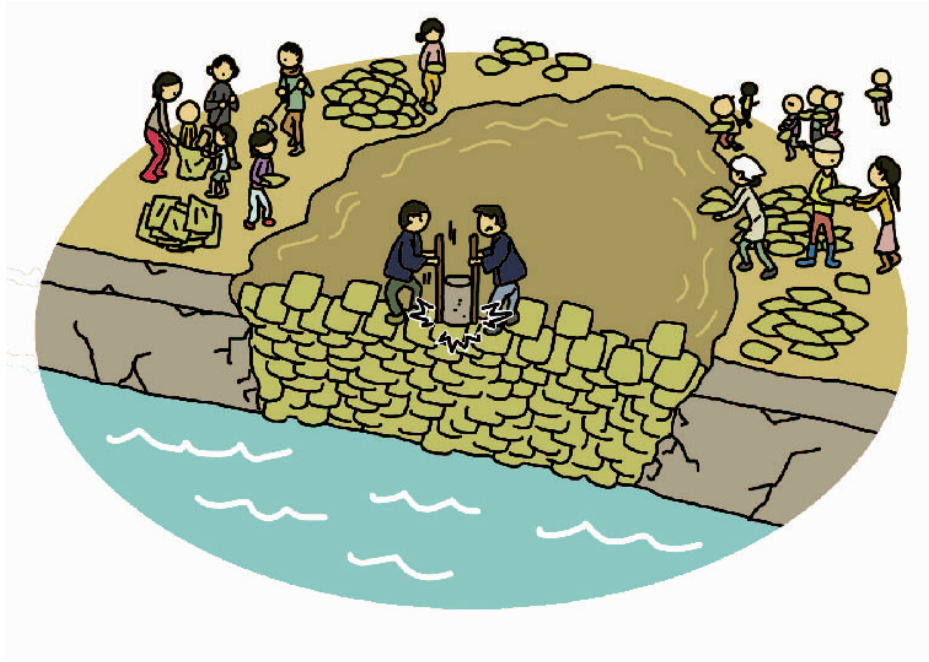


平成一六年(二〇〇四)の台風二三号の高波は、室戸市の海岸堤防を破壊し、三名の命を奪いました。当時の町内会長さんは以下のように証言しています。

あの日は午後一時頃から電話や電気が通じず、とにかく大変な雨と風でした。でも我々室戸市民は台風慣れていましたから軽く見ていたのです。おそらく皆、無防備だったのではないのでしょうか。ですから、あの広くて大きな堤防が吹っ飛んだのを見た時は「まさかこんなことが」という気持ちでした。私はずっと室戸に住んでいますが、あんな光景を見たのは初めてです。

被害のあった家へ救助に行ってみると、堤防の塊が家具もろとも家を押しつぶし、畳が天井に突き刺さっていて、波が山手側の壁までぶち抜いていました。それを見て以来、心構えが変わり、自主防災組織を作るきっかけになりました。

海沿いに住む我々は、自分で自分を守っていくしかありません。台風の怖さを忘れないためにも、高浜地区では一〇月二〇日を地区の防災の日として、防災訓練を実施しようと考えています。



昭和二五年（一九五〇）、日本の国土が敗戦で荒廃しきつていた頃の出来事です。キジア台風と呼ばれる大型の台風によって、愛媛県西条市の広江川口の海岸堤防が決壊しました。決壊した堤防から海水がどんどん流入し、街中に流れ込んで、家々に浸水し始めました。

堤防からの浸水を阻止<sup>そし</sup>するために、消防団員を中心として町の女性や子どもに至るまで総動員して土のうを投げ込みました。しかし、積み上げた土のうは想像を絶する波力の前に瞬<sup>またた</sup>間に破壊され、また大量の海水が流入し始めました。消防団員たちは落ち込む暇もなく、土のう作りを再開し、再度、堤防に積み上げました。今度はしばらく持ちこたえたもののやはり自然の猛威<sup>もうい</sup>の前に破壊しつくされました。さらに三回目に積み上げた堤防も同様でした。

三回も積み上げて、消防団員たちの体はさすがに疲労の極に達していました。誰もが、これはもう無理ではないかと思いはじめました。しかし、最後の力を振り絞って、四回目の土のう作りと投入に取り組みました。やっこの思いで堤防を積み上げたとき、人々にもう力は全く残っていませんでした。みんなは祈るような思いで修復した堤防を見つめていました。

台風の荒波に今にも壊れそうになりながらも堤防は持ちこたえることができました。これを見守っていた人たちから誰とは無しに歓喜の声が上がったのは言うまでもありません。

## 背景

昭和25年（1950）9月13日、中心気圧940hPaのキジア台風が九州に上陸し、その後、中国地方の西端から日本海を北東方向に進み、九州・四国に甚大な被害をもたらしました。昭和21年（1946）の南海地震による地盤沈下のため海岸堤防の補強が十分できていなかった頃で、台風による高潮のため海岸地帯に大被害が出ました。この話は、堤防決壊のため大被害を受けた広江地区などの様子を記したものです。

## アクセス

### 広江川河口

- JR壬生川駅より東へ直線距離約3km
- 西条市広江
- 緯度経度 北緯33度55分29秒，東経133度07分03秒





▲高潮で浸水した高松市内  
(高松市松島町国道11号)



高潮で浸水した高松市内  
(高松市松島町)▶

## 背景

平成16年(2004)8月の台風16号では、激しい雨と大潮の満潮が重なり、記録的な高潮が香川県沿岸の各地を襲い、住宅などの建物は浸水被害に見舞われました。高松港では観測史上最高の2.46mの潮位を記録するなど、県内各地で最高潮位を更新しました。この結果、高松市を中心に、床上・床下浸水が約22,000戸と戦後最大となりました。

この災害で、多くの方が高松市など瀬戸内海沿岸部の土地が高潮に弱い大地であることを認識し防災を考えるきっかけになりました。

## アクセス 浸水現場(旧四国地方整備局前)

- JR高松駅より東南東へ直線距離約2km
- 高松市福岡町4-26-32
- 緯度経度 北緯34度20分28秒, 東経134度04分03秒



平成一六年(二〇〇四)は古来稀まれにみる年で、台風が日本に一〇個、四国には六個も上陸し、瀬戸内海側の香川県、愛媛県でも大きな被害を受けました。中でも台風一六号の際には、香川県においては台風通過が大潮の満潮時刻と重なったため、これまで記録されていた最高潮位を五〇センチメートル超える未曾有の高潮が発生し、高松の中心街など約二万二、〇〇〇戸が浸水しました。その時、消防署員として救出活動たすきに携たずわった人の証言です。

台風一六号では警報発令後、日新小学校区へ急行しました。その時の光景は忘れられません。「なぜこんなことが」と思うほど壮絶そうぜつで、道路を水が流れる中、現状確認に行こうとするのですが、手すりにつかまっても足元がすくわれて押し戻される状態でした。各家庭を回って小さなお子さんやお年寄りを抱えて安全なところまで誘導するにも深夜で何も見えず、危険でした。一軒一軒確認しながら取り残された人たちの救助するのは、とにかく時間がかかります。消防では太刀打ちたちうちできない災害があることを実感しました。

大災害になればなるほど被害は甚大しんたいで、すぐに救助に向かえない場合もあります。どの家に取り残されている人がいるという情報があるかないかで、救助までのスピードが違います。被害を最小限に抑おさえるために、また二次三次の被害を招まねかないために、地域と連携をとっていかなければと痛感しました。